

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第086号(通算)

令和5年1月20日(金)発行

1月も下旬となります。二十四節気の大寒(だいかん)の初候(1/20~1/24)は「歎冬華(ふきのはなさく)」といい、厳しい寒さの中、雪に覆われている地面からフキの花がぼつりぼつりと顔を出す頃。春の訪れが近いことを感じさせてくれる、嬉しい季節です。実際には、花が咲くのはもう少し先のことで、蕾(つぼみ)がみえだす頃ということです。フキノトウは独特のほろ苦さやほこほこした食感もさることながら、なんといっても目のごちそうです。ふっくらとした蕾の形は「大地の春」そのものです。私は毎年、フキノトウを食べる前にしばらく飾って眺めています。

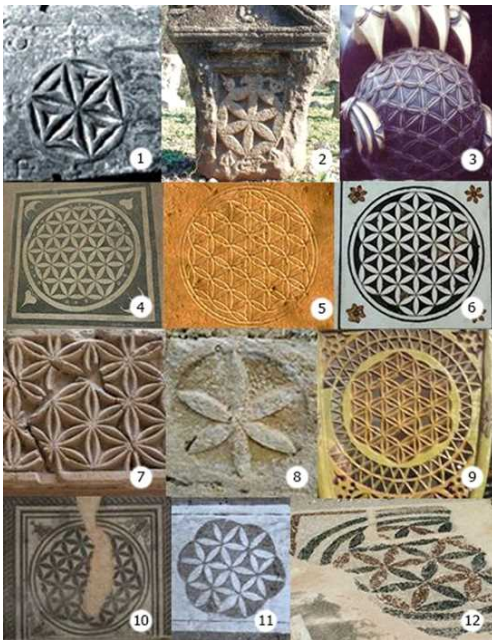
神聖幾何学 フラワー・オブ・ライフの神秘

『フラワー・オブ・ライフ』って聞いたことありますか？



左の図がフラワー・オブ・ライフです。この模様を見て何か思い当たりませんか？日本人にとって馴染み深い「家紋」に似ていると思いませんか？

実はこの模様(幾何学)は、ものすごい昔から世界中にあったそうです。実際に、世界中の色々な遺跡から発見されています。



- ①スコットランド ②イスラエル ③中国
④トルコ ⑤エジプト ⑥インド
⑦ドイツ ⑧ブルガリア ⑨スウェーデン
⑩フランス ⑪チェコ ⑫ギリシャ

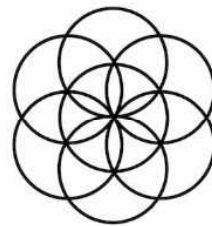
これ意外の場所でも見つかっています。



イタリアのルネッサンスを代表する芸術家、レオナルド・ダ・ヴィンチもフラワー・オブ・ライフの魅力に取りつかれた一人です。レオナルド・ダ・ヴィンチはフラワー・オブ・ライフのスケッチを何点も残しており、なかでもシード・オブ・ライフ(生命の種)、エッグ・オブ・ライフ(生命の卵)、フルーツ・オブ・ライフ(生命の果実)を重要視していたようです。彼の作品の中にはこれらの神聖幾何学や黄金比が適用されているものがいくつもあります。

イタリアのルネッサンスを代表する芸術家、レオナルド・ダ・ヴィンチはフラワー・オブ・ライフのスケッチを何点も残しており、なかでもシード・オブ・ライフ(生命の種)、エッグ・オブ・ライフ(生命の卵)、フルーツ・オブ・ライフ(生命の果実)を重要視していたようです。彼の作品の中にはこれらの神聖幾何学や黄金比が適用されているものがいくつもあります。

チャレンジ【コンパスを使って描こう】



- フラワー・オブ・ライフの中にある幾何図形(上の図)のシード・オブ・ライフ(生命の種)を描いてみましょう。シード・オブ・ライフは7個の同じ大きさの円が規則的に重なりあって形作られています。一見するととても複雑に見えますが、実は簡単に描くことができます。
1. 中心に半径*2センチの円を描く
 2. 描いた円周上の任意の点を中心点とし、同じ大きさの円を描く
 3. さらに最初の円と円の交点の一つを中心点とし、同じ大きさの円を描く
 4. 最初に描いた円の周りに6個の円を描き 終えるまで作業を続ける

*半径2センチは変更自由です
フラワー・オブ・ライフ(神聖幾何学)の作画について、YouTubeに動画が沢山あります。

是非、視聴して作画にチャレンジしましょう。

【校長散策紀行2】



1月7日、竹田神社にお詣りをして、近くの「いにしへの道」を散策しました。まず、竹田神社とは、島津家中興の祖といわれる島津忠良(日新公いしんこう)をご神体として祀ってある神社です。「日新公いろは歌」が有名で、薩摩の郷中教育の基本精神となったと言われていいます。薩摩の武士教育の経典となったものですが、現代の私たちにも通じる多くの示唆を含んでいます。いくつか紹介します。

い、『いにしへの道を聞きても唱へても わが行に せずばかひなし』

意味:昔の賢者の立派な教えや学問も口に唱えるだけでは、役に立たない。実践, 実行することが最も大切である。

へ、『下手ぞとて我とゆるすな稽古だに つもらばちりも やまとなることは』

意味:自分は下手だと卑下して努力を怠ってはならない。稽古を積みれば少しずつ進歩して、遂には上手になれる。ちりも積もれば山となる。継続は力なり。

れ、『礼するは人にするかは人をまた さぐるは人を 下ぐるものかは』

意味:人に礼を尽くす事は、自分を正しくして己を敬う事でもある。天を敬い己を慎む心を養いなさい。



《川辺の風景》



平山の鬼火炊き(1月9日)

令和5年1月6日に予定されていた平山地区の鬼火炊きは、悪天候のため延期を繰り返し、1月9日に実施されました。当日は、空気が乾燥し、風もほとんど無かったことから、炎が真上に燃え上がって、あっという間に燃え尽きてしまいました。

鬼火炊きとは正月の七日に、大やぐらを焼いて、正月飾りについてきた悪霊(鬼)を追い払う鹿兒島の伝統行事で、他県ではほとんど焼き(全国的に一番多い呼称)・トンド焼き・左義長(歴史的な名称)などとも呼ばれます。



一年間の無病息災を祈願してきました。